

「若者支援と住民参加のまちづくり」 官民連携で未来の気仙沼へ

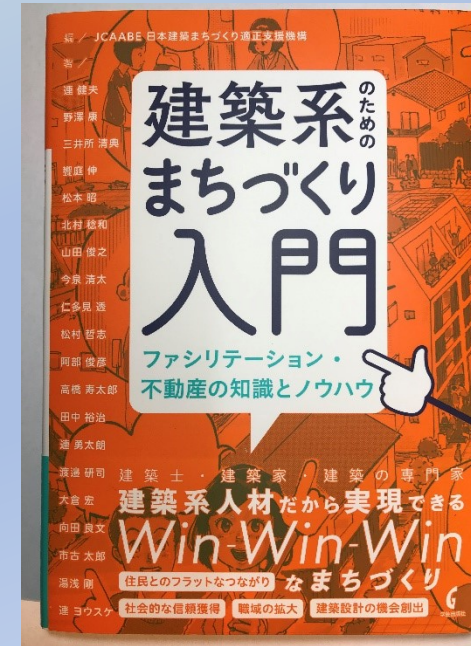
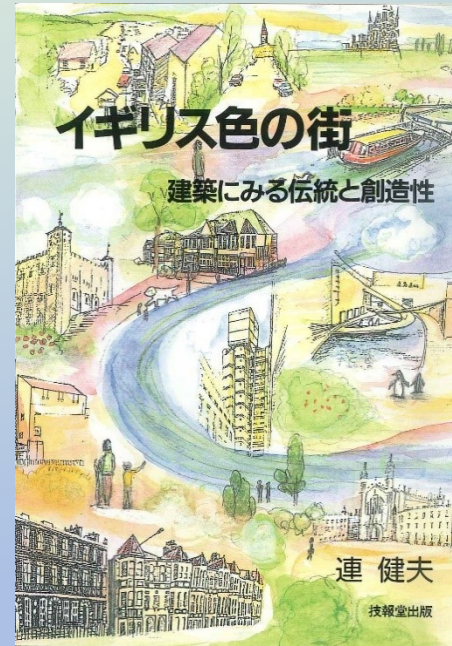
参加のデザイン

連健夫(むらじたけお)、建築家
JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構代表理事



1956年、京都市生まれ、東京都立大学大学院修了、建設会社10年勤務の後、胃の手術がきっかけとなり、1991年、渡英、AAスクール留学、AA大学院優等学位取得の後、同校助手、在英日本大使館嘱託、1996年、帰国、建築設計の傍らまちづくりに関わっている。早稲田大学、芝浦工業大学講師、港区まちづくりコンサルタント、港区景観アドバイザー、2017年～日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
※ルーテル学院大学新校舎(JIA優秀建築選)はくおう幼稚園(栃木県建築景観賞)荻窪家族レジデンス(グッドデザイン賞)

→参加の設計・まちづくり



参加のデザイン(街・建築)

- 街→住民参加のまちづくり
- 建築→利用者参加の建築設計
- 参加のデザインの2つの意味
 - ①参加型の設計やまちづくり
 - ②参加の機会を作る方法

建築・まちづくりの法体系

地域ルール

- ・ 条例
地方自治体が決める → 地域の個性

全国ルール

- ・ 都市計画法
 - ・ 建築基準法
 - ・ 景観法
- など → 全国統一

法体系に乗らない自主ルール → 地域の個性

法令の中での「参加」位置づけ

- 1968年：都市計画案の縦覧、意見書の提出
→パブリックコメントに発展
- 1980年：地区計画制度の創設
(地区スケールの計画ツール、住民参加、合意形成の必要性)
→多くの街でまちづくり条例ができた。
- 1992年：新都市計画法で、住民参加が奨励された
→都市マスタープラン、ワークショップの手続き
- 2004年：景観法の制定



タカラ(良い点)とアラ(悪い点、課題) を見つけ解決策を考えるワークショップ

事例：
赤坂通りまちづくりの会

当方の立場：
登録まちづくりコンサルタント



カメラ係、
メモ係
ポインター係

→小道具は重要！





ゴミ

広告

ガードレール



落書き

窓割れ理論：
Broken Window
Theory.

軽微な犯罪も
徹底的に取り締まる
ことで、凶悪犯罪
を抑止できるとする
環境犯罪学上の理論
。



グループに分かれてディスカッション
→4~6人位が話やすい

※全員が話す機会



→ どれが大切か、
優先順位を
話し合う



先進事例見学 (元町)





ゲート

クランク状
の道



ストリート
ファニチャー

ボラード





切文字、
外照式看板
はオシャレ

→街の自主ルール





赤坂、街づくりの提案の実践
落書きワークショップ°

ビジョンづくりワークショップ°



ビジョン案を作り、賛同者を募る

- ビジョンの登録には
住民の2分の1以上が必要
- 防犯性の高いマンションでは
住民と直接コンタクトを
とることができない。
- 断念
- 我が街ルール10ヶ条（自主ルール）
を作成して運用

赤坂通りまちづくりビジョン（案）



「赤坂通りまちづくりの会」ではまちづくりの範囲と赤坂の2, 3, 5, 6, 7, 8, 9丁目を扱っています。今回、ビジョンの登録において、赤坂6丁目一部の旧日大三高通り沿道地域を対象地域としました。地区まちづくりビジョンの登録要件として、

- ①区域内の在住区民の過半数の合意が必要
- ②対象区域が他のまちづくりビジョンと重複していない
- ③土地、建物に係る権利を制限とする内容でない
- ④説明会の開催等により事前に対象区域内の区民に周知し、その意見を聴いてまとめたもの

となっており、比較的皆様の合意を得やすい範囲とすることで設定しました。今後、ビジョンが登録され、ルールづくりが行われ、活動が軌道にのった後には、この範囲を広げていく予定です。是非、この第1歩でございますので、趣旨をご理解し、ビジョンに賛同して頂ければありがたく存じます。

対象地域：旧日大三高通り沿道地域

連絡先：「赤坂通りまちづくりの会」事務局 寺腰（03-3588-1600）

【花咲か赤坂】

そぞろ歩きが楽しめ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪づれる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」

の意味から

【花咲か赤坂】

をコンセプトワードとします。

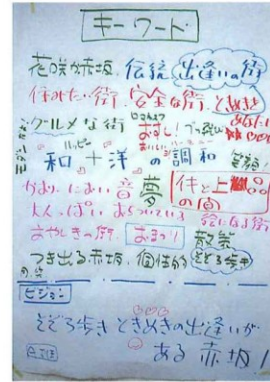
※ビジョンの内容は、ワークショップで出てきた4グループからのビジョンをまとめたものです。

通いの改修案

道のデザイン

→ 一方通行の検討
→ 名前の募集

赤坂通りまちづくりビジョン



キーワード・ビジョン



赤坂への想いを表現したコラージュ

【花咲か赤坂】

そぞろ歩きが楽しみ、
ときめきの出会いがあり、
住む人、働く人、訪れる人、
皆にとって優しい街、
子供が楽しめる育遊の街、
バリアフリーで広い空のある街、
緑が豊かで植栽が楽しめる
まちづくりを目指します。
「美しいこと」「栄えること」
の意味から
【花咲か赤坂】
をコンセプトワードとします。

※ビジョンの内容は、コーポレーションで出された4グループからのビジョンをまとめたものです。

【落書き消し事業 ワークショップ】

日時：2012年7月14日（土）10時～16時
場所：休用地の仮囲い



仮囲い作業



仮囲いに落書きがある
BEFORE



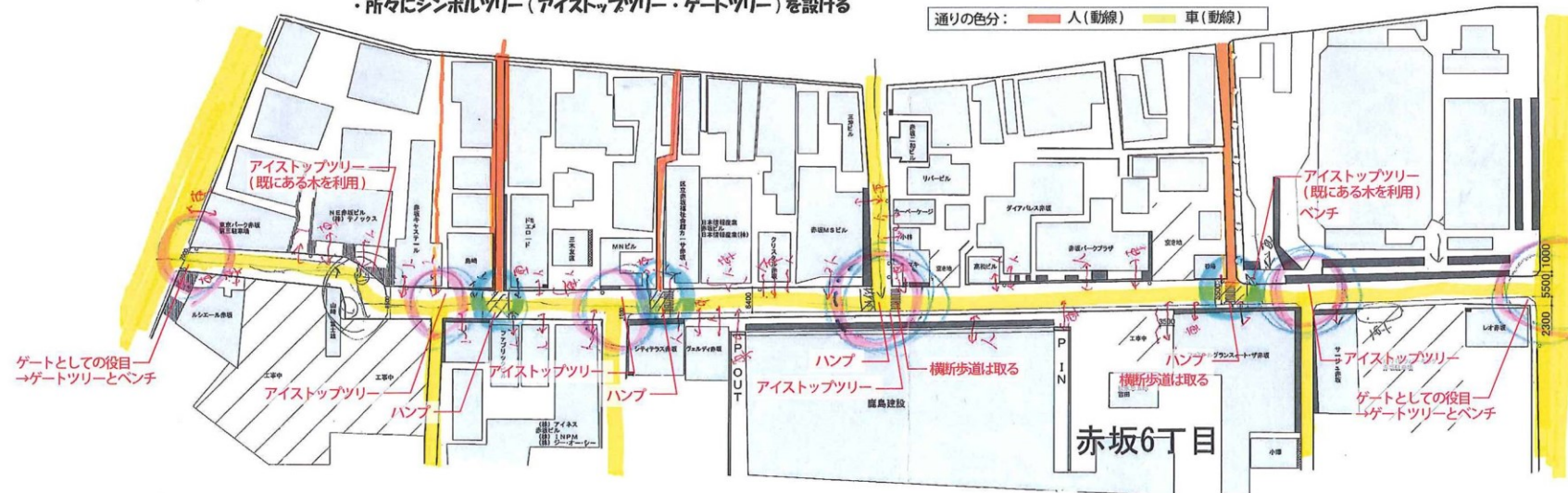
皆で協力して塗装し落書きを消した
色はこげ茶：日本塗料工業会 2005年
AFTER

旧日大三高通りのデザインコンセプト

*特徴

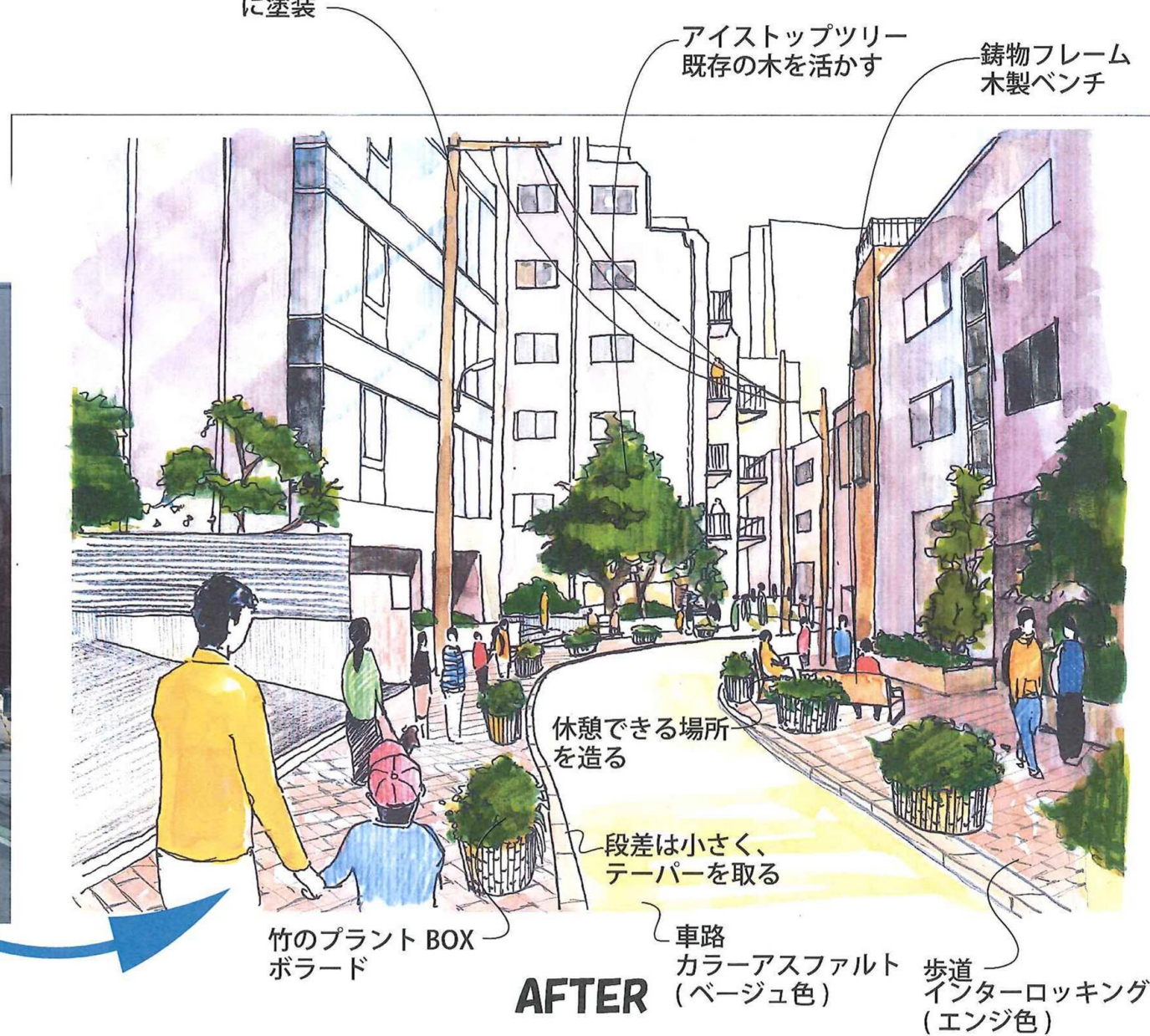
旧日大三高通りを横断する
車道がなく、歩道を含め
T字型に繋がっている
うまくデザインすれば、
まとまりのある道になる

- ・一方通行にして両側に歩道を設ける
- ・歩道と車道の段差は小さく、車イスでも移動できるようテーパー（斜め）をとる
- ・車道は緩やかに蛇行させて変化をつける
- ・歩道はインターロッキング舗装、車道はカラーアスファルト舗装
- ・所々にハンフ（盛上げ）を設け、車がスピードを出せないようにする→人が通る小路の出入り口（従来の横断歩道に替わる）
- ・歩道の広がった場所にベンチを設ける
- ・歩道と車道の境界にはフェンスを設けず花壇付の置型ボードとする
- ・電信柱は広告を取り、こげ茶色に塗装する（落書き消しワークショップと同等色）
- ・所々にシンボルツリー（アイストップツリー・ゲートツリー）を設ける





BEFORE



旧日大三高通り 西側入口部分

気仙沼階上地区 自主的防災移転 支援ワークショップ

仮設住宅住民の生活をお手伝いするNPO
から都立大(市古研)に相談があり

→2013年2月11日～12日に訪問

→自主的に集団移転をしたい人がいるので
サポートして欲しい

→9月に最初のワークショップ、月一度のペース
で訪問



気仙沼のみんなのための生活相談・交流センター

「はしかみ交流広場」

はしかみ交流広場は、

気仙沼のみなさんの生活のお手伝いをするNPOです！

*なんでも相談・・・毎日9時～17時

日常生活の中で、困っていること、どこに相談したらよいのかわからないことなど、お気軽にご相談ください。

*健康相談・・・毎日9時～17時

保健師、看護師などの専門職が常駐しています。
出張健康相談・健康講話も行います。お気軽にお声をおかけください。

*地域の交流活動・・・随時

トレーラーハウスを、お茶飲みの場・フリースペースとして、自由に使っていただくことができます。集まる場所が必要な方、ご相談ください。
また階上地区を中心に、地区イベントの開催・サポートを行っています。

※はしかみ交流広場のご利用は、すべて無料です。

ご相談以外でも、お気軽にお茶っこ飲みにいってください♪



田中美和、村上嘉子、西城宗子
(保健師)(社会福祉士)(介護福祉士)

主催：生活支援プロジェクトK

シニア国際保健協力市民の会

住所：気仙沼市長磯原ノ沢130-7

トレーラーハウス

(国道45号線 階上公民館向かい)

有限会社ホロス隣

電話番号：090-4076-5071

090-2853-5648

移転候補地、 検討ワークショップ

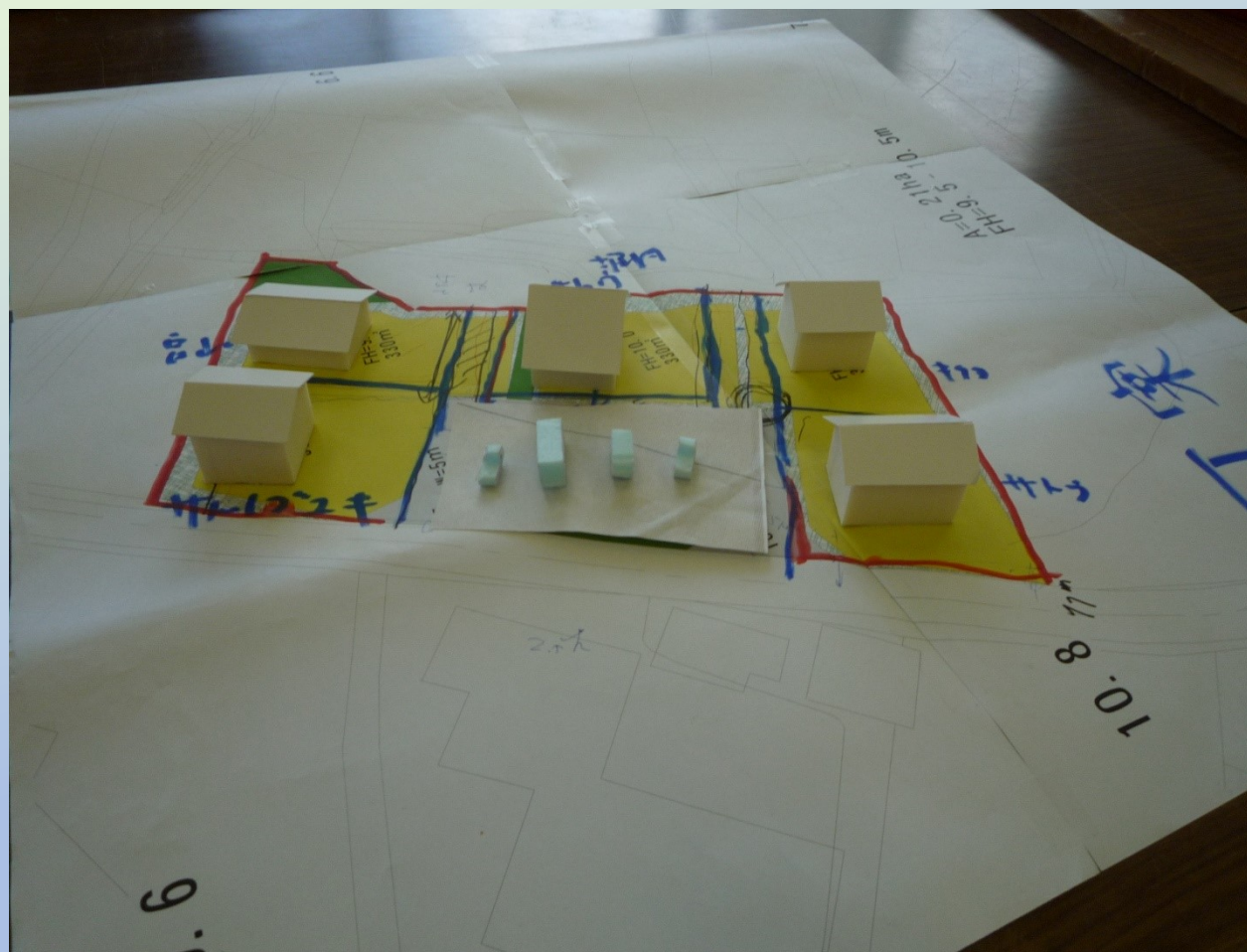


第7回勉強会

場所が決まり、5住戸の敷地割り検討



コンサルタントもアドバイザーとして 参加

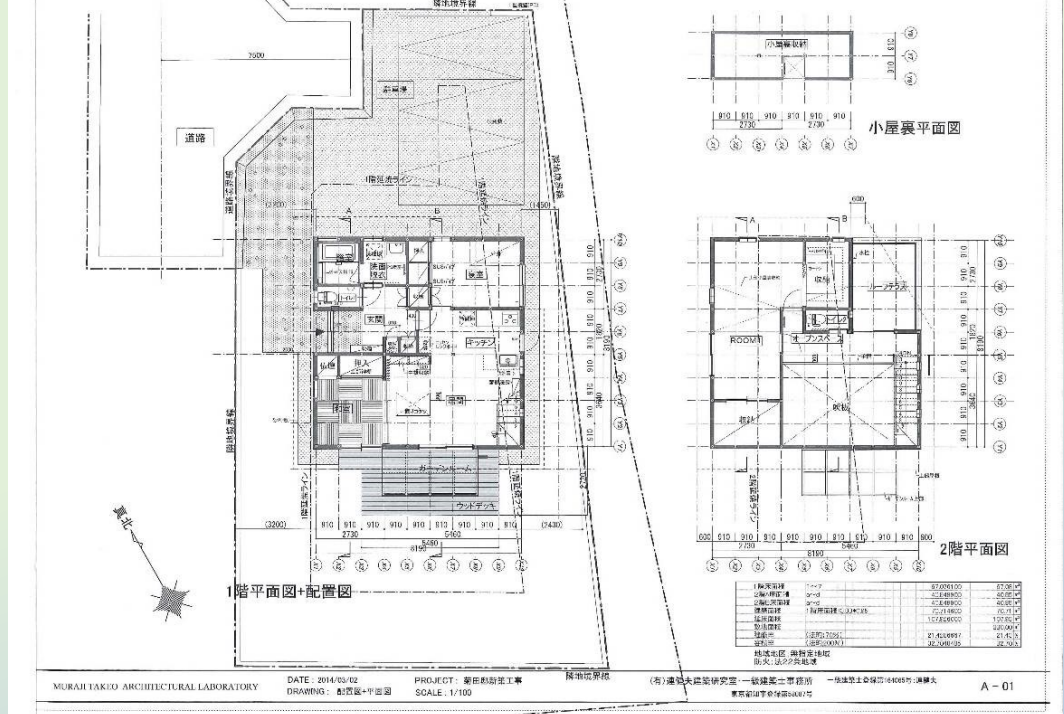


第9回勉強会

現場でテープを張って敷地を体験



1 軒から住宅の設計依頼



完成！



事前復興まちづくり

震災が起こる事前に、
復興のシュミレーションをするまちづくり

事例：白金高輪

（立場：専門家、ファシリテーター）

主催：港区高輪地区総合支所

2017~,白金高輪、白金台、芝浦、麻布、青山、芝三田、芝浦海岸、2025麻布東

エリアを廻る： タカラ（安全な所、発災後に使える場所） アラ（危ない所）を話しながら歩く



各グループ
で話し合った
ことを発表し
共有する



かわら版： 出席できなかった人 にも分かる ようにする →記録

白金五・六丁目地区

第1号

震災復興
まちづくり訓練

かわら版

【発行】 港区 高輪地区総合支所 協働推進課
【問合せ先】(事務局) まちづくり推進担当 電話：03-5421-7664 ファックス：03-5421-7626
平成29年12月

第1回訓練(ガイダンス)を 開催しました！

「震災復興まちづくり訓練」は、通常の防災訓練とは異なり、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、『被災したあと、どのように暮らしとまちを復興していくか』を地域のみなさんと区職員、専門家とともに考える訓練です。

平成29年11月21日(火)、白金の丘学園ランチルームで、第1回訓練を行いました。地域の25名の方々、区職員、専門家が集まり、市古太郎先生(首都大学東京 教授)のお話を聞いて、まちの復興とはどんなことか、イメージを膨らませました。(裏面をご覧ください)



2月の第4回訓練までのお付き合い、どうぞよろしくお願いします！

第2回訓練のご案内

テーマ 震災被害をイメージして復興課題を考えよう！

日時：平成29年12月9日(土) 9:30~12:30

場所：白金の丘学園ランチルーム

内容(予定)：

○震災で、どのような被害がどこに起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこにあるか、まちを歩いて確認します。

○復興の重要なポイントやテーマ、復興の方針づくりなどを話し合います。

第1回訓練の様子

市古先生の講演



神戸市の野田北部地区の実際の復興の様子を映画で見ながら、

- ・都内で行われた、同様の訓練の事例と、その地区に合った復興を検討した成果。
- ・港区都市計画マスタープランの「回復力のあるまち」を実現するための方針や、都の被害想定など。

等のお話しをしていただきました。

港区都市計画
マスタープラン

訓練を実施した
豊島区上池袋地区の
まち歩きの様子



復興問題トレーニングをやってみました ~“ワークショップ”ってなに？

訓練の方法である“ワークショップ”を体感しながら、当地区で被災したらどんなことに困るのか、4つの班で考えてみました。

班ごとに、なりきる家族構成と住まいの被害を決めました。



その家族が、震災1週間後、1か月後、3~6か月後に、どこにいて、どんなことに困っているか、イメージを出し合いました。

「A 古い戸建住宅に住んでいる高齢者夫婦とネコ」が「全壊」した班

⇒時間が経つと、まちを離れて住まわざるを得ない人が出て、今までのコミュニティがどうなるか心配。等



「D マンション住まいの親子4人家族(小学生、幼児)」が「大規模半壊」した班

⇒ライフライン被害のため、実家を頼るが、1か月後頃から、子どもの教育を考えて自宅に戻るか悩みそう。等



「C 戸建住宅に住む3世代家族、祖父は町会役員」が「一部損壊」した班

⇒自宅に住み続ける。みんな協力して取り組んだり、外からの支援を受けることを考える必要がある。等



「D マンション住まいの親子4人家族(小学生、幼児)」が「全壊」した班

⇒避難所に行くしかないが、マンションの全員が入れるか不安。建物の再建については意見が割れなさそう。等



「まちの復興には、様々な人の立場も考えていくことが大切」ということを共有できたのではないのでしょうか？。今後もそのような視点を持って検討していきましょう！。

住民参加のまちづくりの良さ

- ・住民が街の良い点と問題点を考え、共有する。→特徴把握
- ・良い点を活かし、問題点を改善する提案ができる
- ・それを行政や専門家と共に実行する。→協働
- ・自分の街を大切に使う気持ちが生まれる→持続可能性

利用者参加の建築設計

- コーポラティブハウスにおける居住者参加
(英国は公共住宅で発展、日本は民間集合住宅で発展)
→ 公共建築にも利用者参加の仕組みが取り入れられるようになった。
- 利用者参加の理論的構築（実践と理論）
 - 延藤安弘：千葉大学教授を経てNPOで活動した。コーポラティブハウス推進者、
都市計画学会賞など多数受賞、著書「対話による建築まち育て」等
多数
 - 林康義：計画技術研究所所長、住民参加のまちづくりのコンサル、
「協働型まちづくり」等、著書多数。

建築家の設計、利用者参加の萌芽



建築家：芦原太郎、北山恒
白石第二小学校
1996年

計画案に対して、子供たちが使い方のアイデアを出すワークショップを実施
→ユーザーと建築家の双方向のやり取り



コンペ案から参加のデザインへ

湘南台文化センター (1990)
設計者：長谷川逸子

コンペで選ばれた案に対して住民から様々な反応があったことから、市民との間に意見交換会が行われ、これをきっかけに市民参加のワークショップが実施された。

案の説明、市民の理解、市民からの要望を計画に反映、見学会などを実施
→動線計画の変更、
バリアフリーへの手立



住民参加のワークショッププロセスによる建築家設計の
市民ホールが避難所として上手く機能した。
大船渡リアスホール(2009年、設計:新居千秋)





建築設計における利用者参加の事例 (隠岐の島、海士町、知的障害者の作業所)





メンバー
(利用者)
で新しい建
物について
話し合う

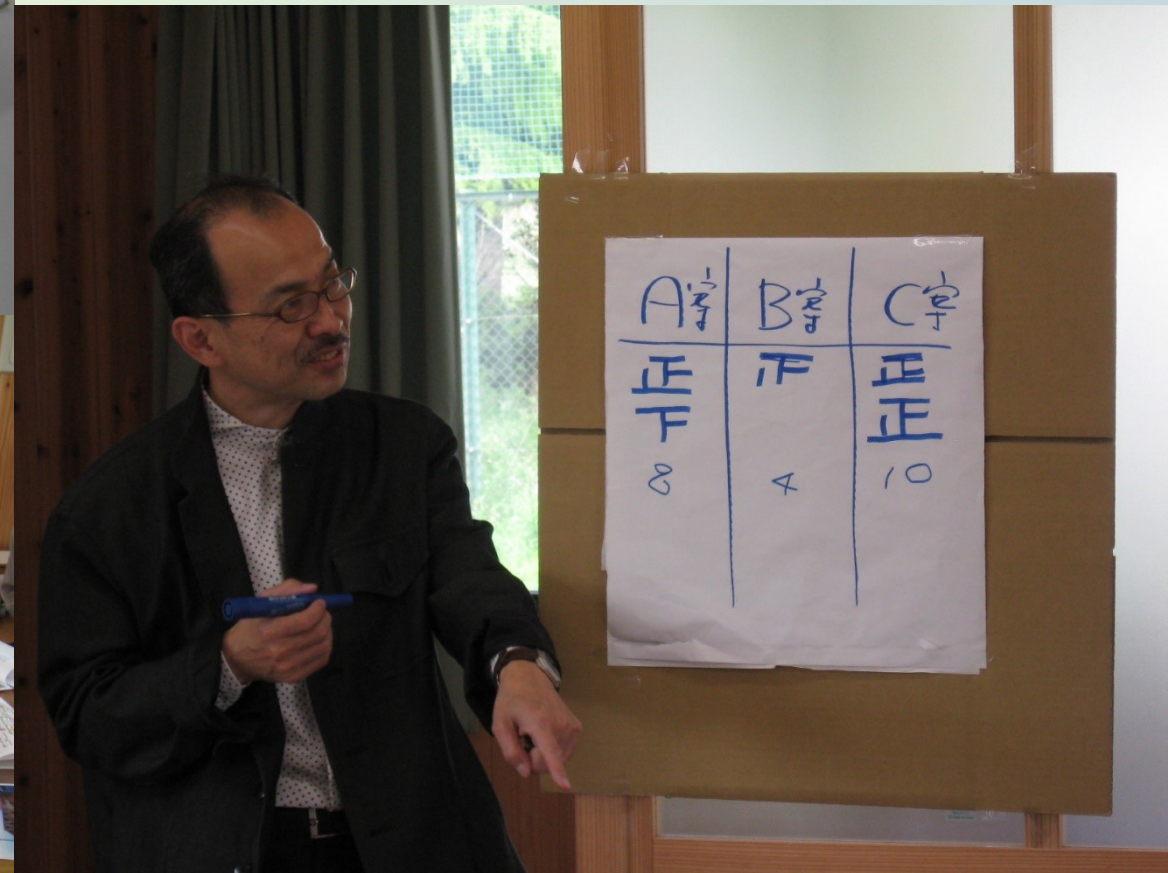
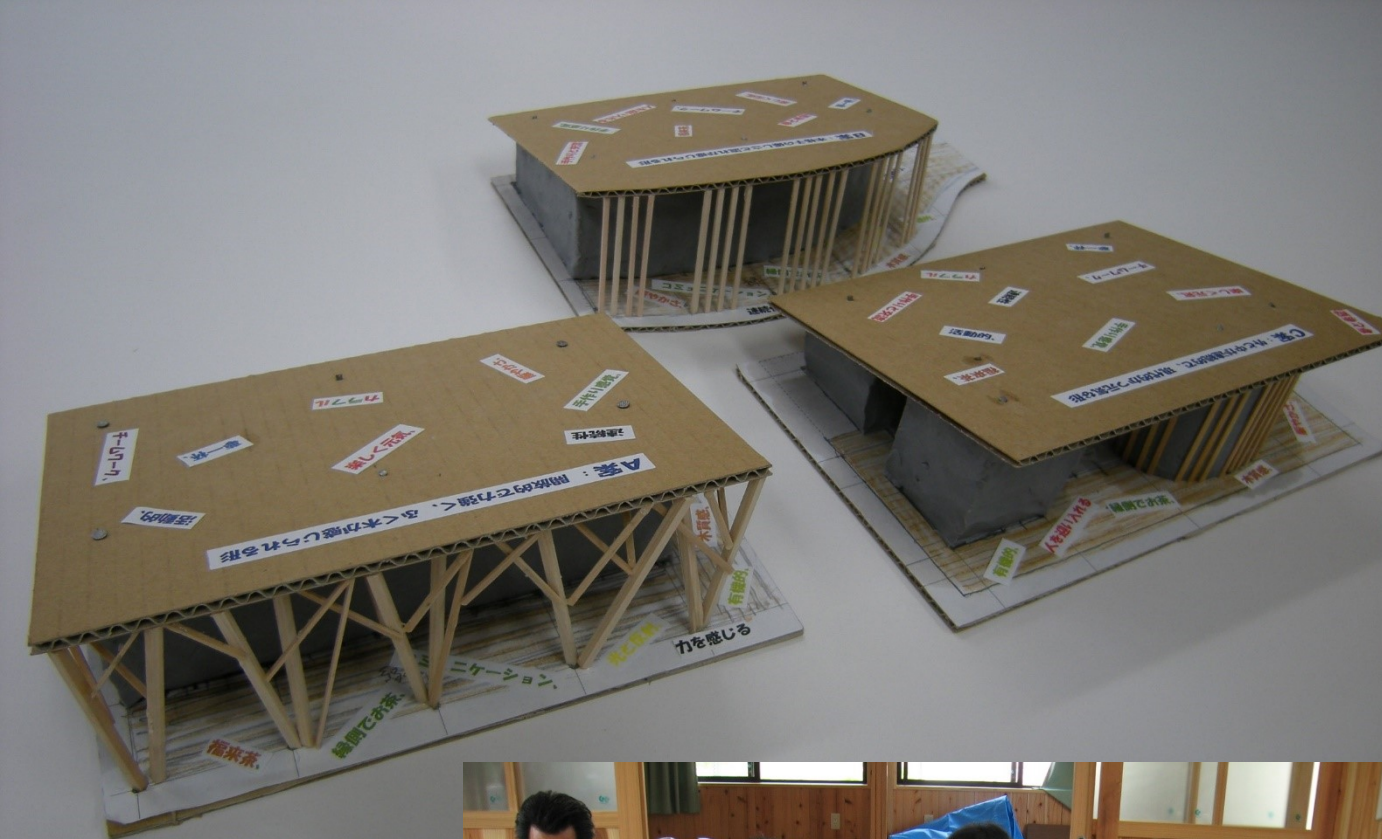


夢をカラー
ージュで表現



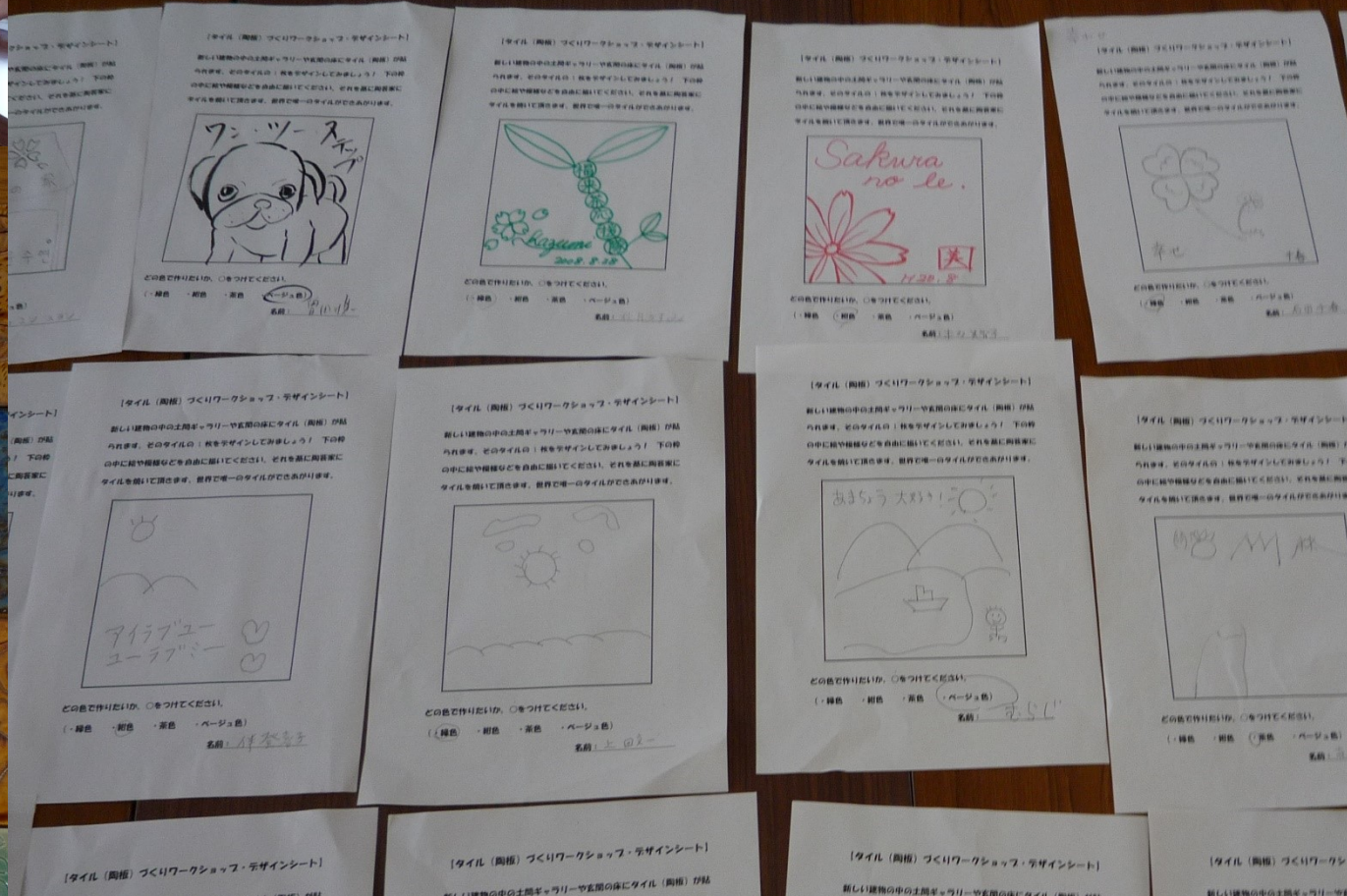
コンセプト
手作りと交流を楽しみ、希望が感じられる場
→人を迎え入れる建物

3つのコンセプトモデルを作り、
投票で選ぶ→投票による参加





関係者に
床のタイルのデザインを考えもらい、
陶芸家に作ってもらう
→参加の機会を作る！





施工での参加

様々な役割
参加の機会



完成！



手作り品(特産品) のショーケース



使いやすいスペース



児童養護施設、小田原ゆりかご園、心理療法棟 建て替え、→子供たちの参加





The collage is a dense collection of various images, including magazine covers, photographs, and illustrations, pinned to a wall. The collage features a mix of pop culture, nature, and fashion. Notable elements include:

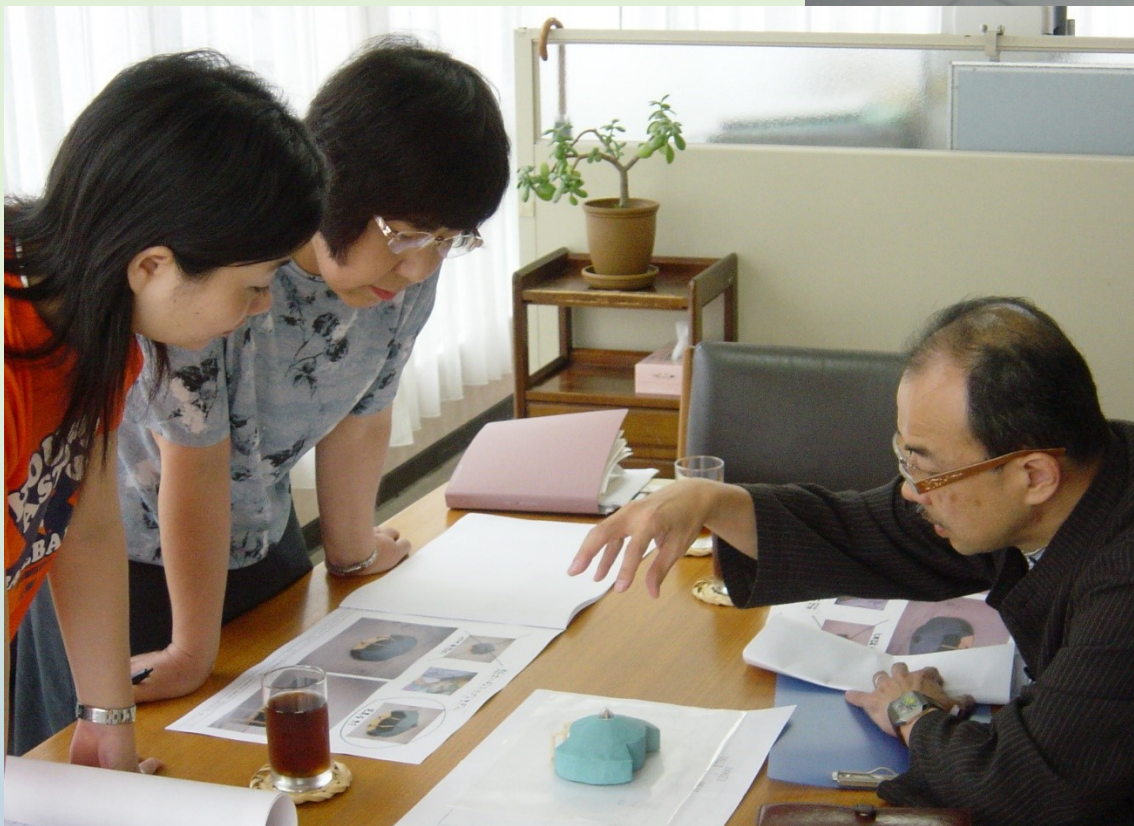
- A cover of **THE NIKKEI MAGAZINE** featuring a person in a red jacket.
- A person in a dog mask playing tennis.
- A person in a rabbit mask.
- A person in a monkey mask.
- A person in a beaver mask.
- Several images of bicycles.
- A person in a cat mask.
- A person in a fox mask.
- A person in a bear mask.
- A person in a pig mask.
- A person in a bird mask.
- A person in a fish mask.
- A person in a dragon mask.
- A person in a devil mask.
- A person in a ghost mask.
- A person in a zombie mask.
- A person in a vampire mask.
- A person in a werewolf mask.
- A person in a mummy mask.
- A person in a clown mask.
- A person in a jester mask.
- A person in a pirate mask.
- A person in a knight mask.
- A person in a wizard mask.
- A person in a sorcerer mask.
- A person in a witch mask.
- A person in a vampire mask.
- A person in a werewolf mask.
- A person in a mummy mask.
- A person in a clown mask.
- A person in a jester mask.
- A person in a pirate mask.
- A person in a knight mask.
- A person in a wizard mask.
- A person in a sorcerer mask.
- A person in a witch mask.

コンセプト

・楽しく 温かみがあり 変化できる場

自然が感じられる、居心地が良く、安定した場
であると共に、変化に富んだ場・ ・ ・
・ ・ ・ ・ 未知の空間、魅力的な空間

→円形・個性的





大黒柱：父性
円形：母性



着工式 儀式の体験





上棟式



外壁の色
投票で決める

参加の機会





色紙に将来の夢を 書いて、壁に貼る



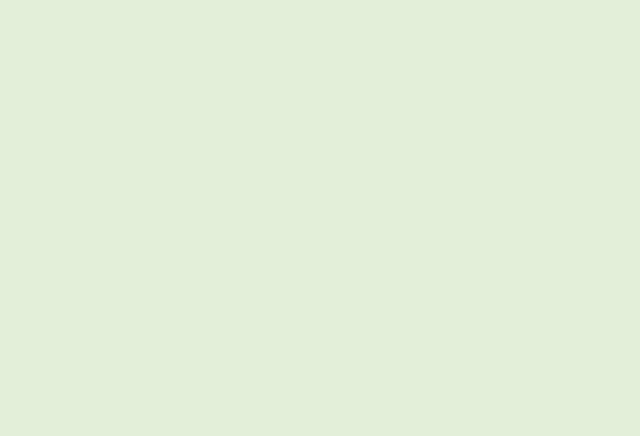


竣工式

子供も挨拶、定礎板取付







ルーテル学院大学新校舎設計→学生の参加





白鷗大学はくおう幼稚園おもちゃライブラリー設計→園児の参加





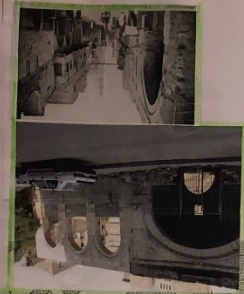
■ポイント：利用者が設計プロセスに参加する

- 小学校→児童が参加する。
- 市民ホール→市民が参加する。
- 知的障害者の作業所→スタッフメンバーが参加する。
- 養護施設→子供たち（居住者）が参加する。
- 大学校舎→学生が参加する
- 幼稚園→園児が参加する。

※参加の機会をつくる！

オンラインで広がる世界：カイロ旧市街住民参加の保存まちづくり においてオンラインで繋がってワークショップを実施

③マンジャク宮殿



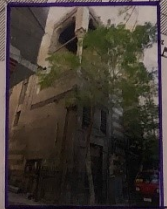
②サビール・クッターブ
シナン・パシャ



①ハンマーム・バシュタク



④サビール・クッターブ
イルゲイ・ユーズフィー



⑤サビール・クッターブ
ルカイヤ・ドゥドゥ



⑥サビール・クッターブ
ハサン・コーカリアン



※文化庁、文化遺産国際協力拠点交流事業

スークシラーハ通りと6つの歴史的
建築物の利用保存を住民参加で検討



One of the collapsed

日本から専門家がオンラインで
繋がり、サポートを行う。



カイロでは、エジプト人建築家が
ファシリテーターを行い
住民参加のワークショップを実施



住民参加の街づくりのポイント

- 地域のたから（良い点）を活かすと共にあら（問題点）を解決
- 地域の特徴、ヴァナキュラー（地域性・土着性）を見出す
- 文化の継承という意味で歴史的視点を大切にする
- 福祉のまちづくりの視点を大切にする
- コミュニティーづくりの視点を大切にする

※地域に根差すコミュニティ（コモン）

興味関心が同じなコミュニティ（アソシエーション）
の両輪の活動が求められる。

良質な建築、美しいまちづくりのために

行政・住民・専門家を繋ぐファシリテーター（促進者・調停者）が求められ

ファシリテーター：Facilitator、促進者

1940年代後半に用いられ始めた言葉、当初はグループカセリンクにおいて、プログラムの進行役として全体をまとめていく役割を示していた。それが会議などで、発言や参加を促したり話の内容を整理し、参加者の認識を一致させる役割や、まちづくり活動における住民の様々な意見をまとめていく役割などに繋がっている。

課題を達成すべく、公平な立場に立ち、専門家の言葉を分かりやすく解説したり、住民のつぶやきを意味ある言葉に翻訳するなど、様々な立場の意見をまとめていく調停者の役割を担う。

社会課題解決型の一般社団法人

JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構

- 良質な建築、美しいまちづくりを目的に設立
- 資格やセミナー、行政支援を扱っている。
→ 認定まちづくり適正建築士、登録まちづくりファシリテーター
- ADR調停人の推薦団体（法務大臣認証ADR機関提携団体）

JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座は、
2023年日本工学教育賞、2024年度日本建築教育賞を受賞

→ 誰でも受講でき、資格を得ることが可能

JCAABE

建築まちづくり コンクール

日常と非常時 をつなぐ デザイン

ドノロキ創楽器 フリースペース つなぎ 梅澤達紀

審査員賞 岩瀬諒子賞

So Lucky
ドノロキ創楽器
～実践と経験から生まれる主体性～

東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼。まちが流れ渡り、生活や人の温もり全てが流された。今回のプロジェクトはこの先、まちを担っていく若者たちと対話しながら創り、楽しみながらここに定住し、暮らしが定着する「家（建築）」をつくる。若者を主体として内面的復興と防災的観点からの地域コミュニティの形成に繋がるプロジェクト。

つなぎ
フリースペースつなぎ 関わり方

東日本大震災を機に、不登校の子供・ひきこもりの若者の安心できる居場所を目指して2013年に気仙沼でオープンした。

それぞれの得意を伸ばす教育の場



① アイデア出し
2023年6月から若者たち共に設計を行ってきた。週1回開催される「子供ミーティング」にオンラインで参加し、若者たちと共に模型を作ることでイメージを共有し、建築の基礎知識を教えた。

② 設計・模型作り
アイデアをもとに設計し、若者たちと共に模型を作ることでイメージを共有し、建築の基礎知識を教えた。

③ 施工準備
2024年4月から施工に向けて準備が始まった。安全講習を行った後、測量と整地を繰り返し、建物を作るための敷地を整備した。他にも木材の運搬やラベリングなど、皆で協力して施工準備を行った。

④ 施工
2024年5月より施工が始まった。若者たちの中には、インパクトドライバや卓上電動のこぎりを学生らの指導のもと使えるようになったものもいた。自分たちのものを自分たちで作るという学校では学べない体験をした。

⑤ 仕上げ材作成
若者たち自ら仕上げとなる竹小屋を作成した。地元の大工さん協力のもと行われ地域の輪が広がっている。自ら作ったものを自ら維持、管理をする心構えを成長させていく。

⑥ 上棟式
地域住民に向けて上棟式を行い、「感謝状の儀」により現いを払った。若者たちの居場所だけでなく、地域コミュニティの結節点にもこれからなっていく。

⑦ 今後の展開
地域住民を交えたシンポジウムやこれを機に若者たちはそれぞれの得意分野を活かして地元企業や行政と連携し起業の準備を始めた。彼らの活動はあたらしいまちづくりのあり方を示す。

所在地 宮城県気仙沼市 設計条件
赤岩泥ノ木21 ・セルフビルドで施工可能
・建築面積10㎡以下
・危険の及ばない高さ

① 東石と土台の配置

② フレームの作成

③ フレームの立ち上げ

④ 横架材で固定

⑤ デッキ・壁の取付

断面バース
1F平面バース

S=1/50

以前は、建築設計やまちづくりは専門家だけで行っていました。
成熟社会になると

まちづくり←住民が参加、

建築設計←利用者が参加



参加により、住みやすい街、使いやすい建築になる。

若者支援→若者の参加の機会をつくる

行政＋専門家＋住民の良い関係・仕組み作りが大切！

※建築まちづくりの民主主義